

## 単行本

## Title of Scientific Books

- 川西徹：“生命科学から創薬へのイノベーション”，米田悦啓，堤康史，石井健編集，第22章レギュラトリーサイエンス，(株)南山堂，東京，pp.162-9 (2014)
- 合田幸広：“薬用植物・生薬の最前線，国内栽培技術から品質評価，製品開発まで”，第4編 薬用植物・生薬の標準化と国際動向，第2章 生薬・漢方処方標準化と日本薬局方，(株)シーエムシー出版，東京，pp.162-72 (2014)
- 香取典子：“生体試料中薬物濃度分析法バリデーションガイドライン解説 -LCガイドライン-”，第I章 ガイドラインの概要，(株)じほう，東京，pp.2-16 (2015)
- 坂本知昭：“実験者／試験検査員の誤ったデータの取り扱い・試験誤操作防止策”，第11章 産業ごとの研究室，試験室での留意点，第1節 医薬品試験検査施設における業務運用の留意点と管理”，(株)技術情報協会，東京，pp.390-5 (2014)
- 小出達夫：“ミスのない難局打開の“造粒技術”～トラブル事例と解決策による造粒の技能伝承～”，第6章 造粒物の評価・分析，サイエンス&テクノロジー (株)，東京，pp.163-74 (2014)
- 石井明子，川崎ナナ：“動物細胞培養の手法と細胞死・増殖不良・細胞異変を防止する技術”，第5章第1節 [2] バイオ医薬品 (組換えタンパク質医薬品) の品質関連規制と対応の留意点，(株)技術情報協会，東京，pp.523-31 (2014)
- 石井明子：“医薬品開発における生体試料薬物濃度分析手法”，第4章生体試料薬物濃度分析 (リガンド結合法) におけるバリデーションのガイドラインのポイントおよび実施の注意点，(株)情報機構，pp.43-56 (2014)
- 花尻 (木倉) 瑠理，内山奈穂子：“薬毒物情報インデックス”，IV.規制薬物・危険ドラッグ，鈴木修，大野洋吉，須崎伸一郎，花尻 (木倉) 瑠理監修，(株)日本医事新報社，東京，pp.537-716 (2014)
- Kikura-Hanajiri R: “Kratom and other mitragynines: The chemistry and pharmacology of opioids from a non-opium source”, The detection of mitragynine and its analogs, eds., Robert RB, CRC Press, pp.153-65 (2014)
- 合田幸広，袴塚高志：“日本生薬関係規格集2014”，合田幸広，袴塚高志監修，(株)じほう，東京，pp.1-705 (2014)
- 袴塚高志：“薬用植物・生薬の最前線～国内栽培技術から品質評価，製品開発まで～”，川原信夫監修，(株)シーエムシー出版，東京，pp.173-9 (2014)
- 鈴木孝昌：“コンパニオン診断薬の現状と課題”，最先端バイオマーカーを用いた診断薬/診断装置開発と薬事対応，(株)技術情報協会，東京，pp.271-5 (2015)
- 齋島由二：“生体適合性制御と要求特性掌握から実践する高分子バイオマテリアルの設計・開発戦略”，第1部：医療機器市場の拡大と新規製品の開発：開発，上市化，市場確保において留意すべきポイント，田中賢監修，サイエンス&テクノロジー(株)，東京，pp.3-21 (2014)
- 中岡竜介：“生体適合性制御と要求特性掌握から実践する高分子バイオマテリアルの設計・開発戦略”，第3章 医療用高分子材料の不具合事例と開発における留意点について，田中賢監修，サイエンス&テクノロジー(株)，東京，pp.358-67 (2014)
- 中岡竜介：“進化する医療用バイオベースマテリアル”，第6編 安全性と薬事審査 第27章 生体吸収性材料を用いた医療機器の安全性評価，大矢裕一，相羽誠一監修，(株)シーエムシー出版，東京，pp.264-72 (2015)
- 河上強志：“食品・化粧品・医薬品への保存料・防腐剤の適切な配合法”，家庭用品などに使用されている防腐剤・抗菌剤による健康被害，(株)技術情報協会，東京，pp.246-50 (2014)
- 五十嵐良明：“衛生試験法・注解2015”，3.2.化粧品試験法，(公社)日本薬学会編集，金原出版(株)，東京，pp.689-731 (2015)
- 手島玲子：“小児食物アレルギー診療up date (小児科4月臨時増刊号)”，6章 治療 主なアレルゲンへの対応-治療と指導- 38.医薬品と食物アレルギー，金原出版(株)，東京，pp.293-301 (2014)
- 松田りえ子，蜂須賀暁子：“放射性物質測定値の統計学的特徴と食品中のセシウム検査”，(公社)日本食品衛生協会，東京，pp.48-141 (2014)

- 手島玲子：“食品危害要因－その実態と検出法－ 第三編 食品表示”，第2章アレルゲン，(株)テクノシステム，東京，pp.463-73 (2014)
- 渡邊敬浩，松田りえ子：“食品衛生検査指針 理化学編 2015”，I. 通則，検体とサンプリング，(公社)日本食品衛生協会，東京，pp.6-14 (2015)
- 手島玲子，安達玲子，酒井信夫：“食品衛生検査指針 理化学編 2015”，II. 試験法 第4章 アレルギー物質，(公社)日本食品衛生協会，東京，pp.309-54 (2015)
- 松田りえ子，渡邊敬浩：“食品衛生検査指針 理化学編 2015”，II. 試験法 第6章 食品中の汚染物質および変質物 総論，(公社)日本食品衛生協会，東京，pp.506-19 (2015)
- 片岡洋平：“食品衛生検査指針 理化学編 2015”，II. 試験法 第6章 食品中の汚染物質および変質物 1. 清涼飲料水中の鉛・カドミウム・ヒ素・スズ，(公社)日本食品衛生協会，東京，pp.520-44 (2015)
- 渡邊敬浩：“食品衛生検査指針 理化学編 2015”，II. 試験法 第6章 食品中の汚染物質および変質物 4. 魚介類中の総水銀およびメチル水銀，(公社)日本食品衛生協会，東京，pp.557-61 (2015)
- 渡邊敬浩，片岡洋平：“食品衛生検査指針 理化学編 2015”，II. 試験法 第6章 食品中の汚染物質および変質物 6. ミネラルウォーター中の各種化学物質，(公社)日本食品衛生協会，東京，pp.648-77 (2015)
- 堤智昭：“食品衛生検査指針 理化学編 2015”，II. 試験法 第6章 13. ダイオキシン類，(公社)日本食品衛生協会，東京，pp.727-74 (2015)
- 根本了：“食品衛生検査指針 理化学編 2015”，II. 試験法 第6章 食品中の汚染物質および変質物 16. アクリルアミド，(公社)日本食品衛生協会，東京，pp.795-803 (2015)
- 堤智昭：“食品衛生検査指針 理化学編 2015”，II. 試験法 第7章 B 植物毒 2. シアン(青酸)化合物，(公社)日本食品衛生協会，東京，pp.870-78 (2015)
- 堤智昭：“食品衛生検査指針 理化学編 2015”，II. 試験法 第9章 放射線照射食品 2. アルキルシクロブタンン法，(公社)日本食品衛生協会，東京，pp.971-79 (2015)
- 手島玲子：“食物アレルギーの現状とリスク低減化食品素材の開発”，第1編 食物アレルギーの多様性と発症メカニズム 第5章 経皮感作が関与する食物アレルギー，第3編 アレルゲンの検出・定量およびアレルゲン性評価法 第1章 *in vitro*評価系 1-1.1~1.5，(株)シーエムシー出版，大阪，pp.32-6, pp.118-22 (2015)
- Akiyama H: “ACS Symposium Series 1162 Food Additives and Packaging”, Chapter 2.Regulation of Food Additives in Japan, American Chemical Society, Washington, DC, pp.11-25 (2014)
- 穂山浩：“食物アレルギーの現状とリスク低減化食品素材の開発”，第3編，第5章 低分子化合物の食物アレルギーについて，第4編，第1章 (11)，β-カロテン強化摂取による食物アレルギー発症抑制について，(株)シーエムシー出版，東京，pp.59-65, pp.217-21 (2015)
- 穂山浩，六鹿元雄，河村葉子，阿部裕：“食品衛生検査指針 理化学編 2015”，第11章 器具・容器包装，第12章 おもちゃ，第13章 洗浄剤，(公社)日本食品衛生協会，東京，pp.1036-343 (2015)
- 佐藤恭子：“衛生試験法・注解 2015”，2.3 飲食物試験法：食品添加物試験法，(公社)日本薬学会編，金原出版(株)，東京，pp.329-406 (2015)
- 脊黒勝也，久保田浩樹，佐藤恭子，穂山浩：“食品・化粧品・医薬品への保存料・防腐剤の最適な配合法”，第5章 [2] 保存料，日持ち向上剤等に関する国内外規制の違い，(株)技術情報協会，pp.275-87 (2014)
- Kawamura Y: “ACS Symposium Series 1162 Food Additives and Packaging”, Chapter 15. Bisphenol A in Japanese Canned Foods, American Chemical Society, Washington, DC, pp.155-66 (2014)
- 河村葉子，六鹿元雄：“衛生試験法・注解 2015”，3.1 器具・容器包装および玩具試験法，(公社)日本薬学会編，金原出版(株)，東京，pp.601-87 (2015)
- 五十君静信：“実践に役立つ！食品衛生管理入門”，公定法(細菌数，E.coli，大腸菌群，腸内細菌科菌群)，(株)講談社，東京都，pp.38-50 (2014)
- Pascoe B, Lappin-Scott H, Sheppard SK, Asakura H: “Does biofilm formation aid colonization and infection

in *Campylobacter*?" *Campylobacter ecology and evolution*, eds., Sheppard SK and Meric G, Caister Acad Press Ltd., UK, pp.2041-54 (2014)

Suzuki H: "Shellfish: Human Consumption, Health Implications and Conservation Concerns", Chapter 12. STRAIN- AND SEX-DIFFERENCES IN SUSCEPTIBILITY IN THE MOUSE BIOASSAY FOR DIARRHETIC SHELLFISH POISONING TOXINS, ed., Robert M. Hay, Nova Science Publishers, Inc., New York, pp.399-411 (2014)

鈴木穂高: "食品衛生検査指針 微生物編 2015", 第1章 総論 7 微生物試験における基本的事項 5. 動物試験法, 食品衛生検査指針委員会監修, (公社)日本食品衛生協会, 東京, pp.94-101 (2015)

大城直雅, 仲里信彦: "別冊日本臨牀新領域別症候群シリーズNo.30 神経症候群 (第2版) V-その他の神経疾患を含めて-", シガテラ魚類食中毒, (株)日本臨牀社, 大阪, pp.684-87 (2014)

大城直雅: "別冊日本臨牀新領域別症候群シリーズNo.30 神経症候群 (第2版) V-その他の神経疾患を含めて-", パリトキシン様毒とパリトキシン, (株)日本臨牀社, 大阪, pp.688-91 (2014)

大城直雅: "食品危害要因 その実態と検出法", シガトキシン, 後藤哲久, 佐藤吉郎, 吉田充監修, (株)テクノ出版, 東京, pp.137-42 (2014)

大城直雅: "食品危害要因 その実態と検出法", パリトキシン様毒とパリトキシン, 後藤哲久, 佐藤吉郎, 吉田充監修, (株)テクノ出版, 東京, pp.165-9 (2014)

大城直雅: "食品衛生検査指針理化学編2015", 下痢性貝毒, (公社)日本食品衛生協会, 東京, pp.835-41 (2015)

大城直雅: "食品衛生検査指針理化学編2015", シガテラ毒, (公社)日本食品衛生協会, 東京, pp.842-8 (2015)

大城直雅: "毒魚の自然史", シガテラ毒, 松浦啓一, 長島裕二編著, (社)北海道大学出版会, 札幌, pp.113-34 (2015)

百瀬愛佳, 五十君静信: "食品衛生検査指針 微生物編 2015", 第2章 細菌 - 7カンピロバクター, (公社)日本食

品衛生協会, 東京, pp.312-23 (2015)

岡田由美子, 仲真晶子: "食品衛生検査指針 微生物編 2015", 第2章 細菌 - 9リステリア, (公社)日本食品衛生協会, 東京, pp.340-62 (2015)

荻原博和, 岡田由美子: "食品衛生検査指針 微生物編 2015", 第2章 細菌 - 17クロノバクター属菌, (公社)日本食品衛生協会, 東京, pp.490-504 (2015)

野田衛: "食品衛生検査指針 微生物編 2015", 第4章 ウイルス 1 総論 など, (公社)日本食品衛生協会, pp.598-606, pp.627-32, pp.665-84, pp.740-7, pp.756-64 (2015)

福田信治, 野田衛: "食品衛生検査指針 微生物編 2015", 第1章 総論 7 微生物試験における基本的事項 6. 遺伝子検査, (公社)日本食品衛生協会, pp.101-13 (2015)

斎藤博之, 野田衛: "食品衛生検査指針 微生物編 2015", 第4章 ウイルス 2 各論 1. 食品, 環境材料等の前処理法 (1) 食品, 臨床材料, ふき取りの前処理法, (公社)日本食品衛生協会, pp.607-17 (2015)

近藤一成: "食品危害要因: その実態と検出法", 第3章 遺伝子組換え作物 (GMO) 第4節 未承認遺伝子組換え食品の検知法, (株)テクノシステム, 東京, pp.497-504 (2014)

安達玲子: "食物アレルギーの現状とリスク低減化食品素材の開発", 第2編 第4章 その他 (特定原材料に準ずるもの), (株)シーエムシー出版, 東京, pp.55-8 (2015)

Sakai S, Adachi R, Teshima R: "Handbook of Food Allergen Detection and Control", Chapter 17 Detection and control of eggs as a food allergen, Woodhead Publishing Ltd., Cambridge, UK, pp.313-40 (2014)

登田美桜: "食品危害要因 その実態と検出法", 第II編 第1章 第4節 有毒な高等植物, 後藤哲久, 佐藤吉郎, 吉田充監修, (株)テクノシステム, 東京, pp.171-7 (2014)

春日文子: "食品衛生検査指針 微生物編", 第1章 総論2 微生物基準とサンプリングプラン, (公社)日本食品衛生協会, 東京, pp.27-32 (2015)

Kanda Y: "Chapter10: Assessment of cigarette smoking

toxicity using cancer stem cells”, Smoking Restrictions, Risk Perceptions and Its Health and Environmental Impacts, Nova Science Publishers, Hauppauge, New York, USA, pp185-96 (2014) .

諫田泰成：“ヒトiPS細胞を用いた心毒性試験の現状と課題”，谷本学校 毒性質問箱 第16号，安全性評価研究会編集委員会編集，(株)サイエンティスト社，pp.91-4 (2014)

小島肇：技術移転で整備すべき文章・報告書類，実験者／試験検査員の誤ったデータの取扱い・試験誤操作防止策，(株)技術情報協会，東京，pp.57-8 (2014)

小島肇：動物実験代替法を取り入れた安全性保証の考え方，美肌化学の最前線，(株)シーエムシー出版，東京，pp.157-63 (2014)

小島肇：代替法における工学的新技術の可能性，動物実験代替のためのバイオマテリアル・デバイス，(株)シーエムシー出版，東京，pp.1-5 (2014)

小島肇：化粧品の安全性評価，エマルションの特性評価と新製品開発，品質管理への活用，(株)技術情報協会，東京，pp.326-31 (2014)

小島肇：化粧品・医薬部外品 安全性評価試験法，(株)じほう，東京，pp.1-138 (2014)